

第30回股関節研究会開催・・・研究会終了の挨拶
保存的治療に向けて

富士温泉病院 前名誉院長 矢野英雄

第30回股関節研究会開催に当たってご挨拶申し上げます。

私は、昭和47年から2年間都立補装具研究所に勤めて人工股関節の歩行解析について研究いたしました。その後、故田川宏先生に師事して人工股関節の手術法を学び、人工骨やセラミックスを使って新しい人工股関節の開発に従事しましたが人工股関節の欠点であったゆるみを克服することができませんでした。この一連の研究から巷間言われているような人工関節のデザインや材料あるいは手術技術の巧拙でゆるみが生じるのではなく、人工関節を使う考え方そのものに原因があると考えに至りました。人工関節のゆるみ発生の欠点を回避するためには感覚器が備わった自分の骨や関節と使って関節機能を再建する他にはないと考え、ご存じのような寛骨臼回転骨切りの手術法を開拓してきました。当初20歳までであったこの手術を60歳台の患者さんに行えるように技術改良し、他の医療機関でもこの手術が中高年の患者さんに行われる時代となりましたが、良好な結果を維持するためには水治療と関節拘縮除去のリハビリテーション、そして自己管理が必要であることを実感させられました。

このような理由から昭和61年に患者さんに自己管理を体得して頂くために股関節研究会を開催しました。この研究会は当初医師と患者さんの情報交換会でありましたが国立身障者リハビリテーション勤務時代からPTにも参加して頂きました。

昭和62年に富士温泉病院設立者の初代理事長の中村敏寛先生にお会いしました。先生は先天性股関節脱臼の専門家でありました。先生との話し合いで成人の股関節症の治療には手術法の改良だけでなく運動訓練や温泉プールの股関節機能の維持と増進を目指す治療が大切であると意見が一致しました。以来、リハビリテーションを富士温泉病院にお願いすることとなりPTの教育に携わってきました。

この間、国立身障者リハビリテーションセンターで脊髄神経と股関節の運動と重力との関係を脊髄損傷の患者さんの歩行から学びました。この知見を元に経験と重ねてきました。そして股関節症の治療では重力のストレスを緩和することと股関節の関節運動を改善するものが有効であることが判りました。現在、富士温泉病院の治療の体系化に腐心しております。

最近では保存的治療で良くなった話を聞きつけた患者さんが富士温泉病院に来院されますが、保存的治療法は未だ不完全で慎重な対応が必要であります。しかし、股関節症の患者さんが一生を通じて股関節を管理するためには、自らが股関節の機能を理解し、障害を管理することが大切であります。股関節症の情報交換会はこの趣旨のもとに研究会を開催しました。

同じように患者さんが主導する情報交換会とし1986年に設立されたのぞみ会が一昨年からNPO 法人として全国的規模でスタートし、患者さんが自立して自らが主体となって股関節の治療を進める機運が高まっております。このような時代にあって患者さんと医師、PT、OT、運動療法士、水治療者などの情報交換会の魁となったこの股関節研究会の使命も終わったと思います。ここに股関節研究会を一度閉会したいとおもいます。

第30回股関節研究会記念会では、恩師で水中歩行の草分けであります宮下先生に水中歩行訓練のお話を頂き、痛みの除去に係わるひとのメンタルケアについて尊敬する精神科医師であります熊倉先生から頂くこととなりました。いずれも股関節の自己管理に欠かせないお話であります。

併せて私が関わっている先端技術を使った骨切りロボットのお話を日立製作所中央研究所からお伺いいたします。

最後にこれまで患者さんから頂いた知見と情報に感謝致しますと共に、講談社から学術図書として股関節の機能と治療の本を出版してこれまでのご指導に報いたいと思います。

図書出版のときに必要ならば新たな研究会再開の検討を行いたいと思います。

富士温泉病院で股関節治療を継続致しますので、今後とも宜しく願い申し上げます。

皆さまのご健勝を祈ります。